

社会的養護児童の子育ての社会化の可能性 —地域養護活動への参与観察をふまえて—

笹倉千佳弘 (幼児教育学科), 井上寿美 (関西福祉大学)

The Possibility of Socializing Child-Rearing for the Children in Social Care — According to Participant Observation to Chiikiyogo —

Chikahiro SASAKURA (Department of Preschool Education)

Hisami INOUE (Kansai University of Social Welfare)

抄録

本稿の目的は、社会的養護児童の子育ての社会化の可能性について検討するさいの基礎資料として、地域養護活動の実際について報告することである。地域養護活動をおこなっている児童養護施設が取り組む転住への参与観察をとおして収集した事例を検討した結果、次の3点が明らかになった。①当該児童養護施設の子どもと職員は対等な関係にあり、職員は子どもの主体性を重んじている。②当該児童養護施設の子どもは、地域住民から最大級のもてなしを受けることによって、大切にされていることを自覚、あるいは感受している。③当該児童養護施設における「①」のような日常が前提にあるからこそ、当該児童養護施設の子どもが地域住民によって大切にされた経験が、一般化する可能性を有している。

キーワード：児童養護施設 地域住民 転住